

2019年度学校法人東京 YMCA 学院事業報告

I 2019年度学校法人東京 YMCA 学院総括

2019年度は、学校法人事業は法規的・継続的である事を踏まえ、前年度の運営方針・構想を、民主的市民社会・福祉社会・国際社会が求める教育の質の観点から、また地域形成に参画する YMCA のありかたの視点からそれを発展的に継承し、経常の中での具体的目標とした。

各項目を踏襲し実現に向けての一層の努力を傾けた。学校法人としての総括を述べてみたい。

- 1 各園・各校の将来のあるべき姿またその使命を明らかにしてゆく
— 経常事業評価と将来への見通し

江東YMCA 幼稚園

2019年度の運営方針は「主体的に生きる」「三者で育てる」である。

園児の確保や教員の確保、教育の質の維持等の安定した運営を行った。

- 1) 安定的な園児募集に努める

例年、見学会や説明会において定員を上回る申し込みがあり、キャンセル待ちとなっていたため、見学会、説明会の回数を増やし対応をした。そして園庭開放をはじめ、卒園生の帰属意識を高め保護者の来館者数を増やし広報活動を行った。

- 2) 子ども・子育て新三法への対応の研究継続

隣地南側に現存建物群の一部の土地の取得をすることができた。敷地面積の増加に伴う園舎全体の改築工事の内容、補助金、行政とのやり取りなどを考え、次年度も継続研究とする

- 3) 幼児教育無償化への具体的対応の研究

江東区私立幼稚園連合会、江東区などの説明会に参加し情報の収集に努めた。

- 4) 教職員に積極的に研修の機会を提供する。

教職員にキリスト教保育連盟、東京都私立幼稚園連合会、東京 YMCA チャイルドケア事業部などの研修に、教職員が平等に積極的に参加をした。

- 5) 保育・教育を通してメッセージの発信

子育て講演会、チャリティーラン、ピンクシャツデー、国際協力街頭募金に多くの家族での参加があった。体験型のプログラムにより子どもたちの趣旨の理解度も上り、メッセージの発信につながった。また新たなプログラムとして「カンボジアに制服寄贈」プログラムを行い、江東ワイズメンバーと保護者が現地を訪れ、帰国後には保護者を対象とした報告会も行った。

- 6) 社会貢献

近隣の都立木場公園内のガーデニングを家族で行った。またコミュニティーセン

ターとの協働プログラムにおいては SDG s への取り組みとし「エコ」に焦点を当て運営を行った。

7) 江東センター、幼稚園再開発検討の取り組み

再開発案は「子ども・子育て新三法」への対応研究が求められる。隣地を購入できたが、現状ではまだ新制度の基準に達する敷地面積には満たない。幼稚園の定員維持とセンターの新しいプログラム開発のためにも継続的に隣地の情報収集を行っていく。

しのめこども園

開設9年目を迎え、「キリスト教保育・教育の展開」、「家庭・地域・こども園の三者での子育て」を運営の根幹に据え、事業展開を行なった。また「就労支援」としての役割や期待のみならず、将来を担う子どもたちを見据え「こどもを中心とした保育・教育の展開」を具体的に取り組んだ。

1) 安定した園児募集に努める

今年度は、近隣に新規こども園が開園する事を踏まえ、今までの募集策の見直し、強化をはかると共に、例年より早い時期からの見学会、HP掲載のスピードアップ、新パンフレット作成など新たな試みを行ない成果を得る事ができた。

2) 教職員に積極的に研修の機会を提供する

学期毎に行う全体教職員会を内部研修の機会として実施した。こども園という環境、システムを考えた場合、随時外部研修に出席する事は難しい状況にあるため、今後再考が必要である。

3) 事務局体制の強化

人員を整え、的確な学校事務の遂行を目指した。結果丁寧な対応、受付業務等の改善がみられた。然しながらまだ十分機能していない部分も有り、引き続き速やかで正確な学校事務遂行を目指していく。

4) 保護者会活動の強化

コーラスグループ「すまいる」や、おひさま会（保護者会）の活動をブログに随時アップした。タイムリーな情報が随時流れる事により、いち早く情報の共有化ができるようになり、各活動の活性化に繋がった。

5) 10周年記念事業行事の準備

開設10年を記念して『10周年記念こども園フェスティバル』を2020年5月9日に開催する予定である。開催に向け実行委員会を組織した。またこのフェスティバルの運営については、来年4月時点で小学4年生以上の卒園生に呼びかけ、ジュニアリーダーとして関わってもらおう（現在希望者45名）。そしてジュニアリーダー会も組織化した。

6) 保育・教育を通して社会的メッセージの発信

チャリティーラン、子育て講演会、ピンクシャツデイ等、恒例になっている行事やイベントについては、園児や保護者を巻き込みながら進める事ができた。

またその発信ツールとして、こども園 HP を中心に発信した。またワイズと協働で実施したイベント等は、ワイズ HP やフェイスブックを活用し情報の拡散を行なった。

カンボジア制服寄贈については6月・11月の2回実施をした。出発前には園児達にカンボジアについてのお話を行ない、帰国後は報告会を行なって理解を深めた。

また11月には、こども園保護者（父親）も興味関心を示し、ワイズメンバーと共に 現地を訪れた。

7) 社会貢献活動への取り組み

SDGsの一環として「環境問題」に取り組む準備を進めた。豊洲周辺海域に、ワカメや魚介類を生息させ、種付けから収穫までを体験させ、環境についての気づきや学びをしていく内容である。準備段階として、こども園が中心的推進者となり、行政や船橋漁協、東京海洋大学、豊洲市場、ワイズ等を巻き込みながら共に準備を進めてきた。

12月に江東区の協力により、使用できる海域に目処がついたため、次年度1月～3月の期間中に、園児や保護者を中心に種付け作業をしてもらい、3月末に収穫をする予定である。また衛生上問題が無ければ食べる体験イベントを行なう予定である。

8) 施設管理維持、教育環境を整える

経年劣化による箇所が多くなり、補修や交換が多くなった。然しながら園児たちの教育環境や安全を守るため出来る限り整備を行なった。

医療福祉専門学校

時代に合わせた介護福祉士・作業療法士育成の取り組みを充実させ、その取組の様子を発信するなどして広報活動を充実させた。介護福祉科は、国家試験合格および留学生を受け入れる環境を充実し、作業療学科は、国家試験合格まで導くことを強く意識させ、その環境を整えた。また、実務者研修は近隣施設との連携を強化、EPA研修は丁寧に実績を積むよう運営した。

1) 学生への懇切丁寧な指導

個々の学生の特徴を把握し、それぞれの目標に向かって、より分かりやすい授業、丁寧な学生サポート、国家試験合格に連動する授業などの教育活動を徹底した。個々の課題、つまづきの原因等を明確にし、早期から対策につとめた。

① より分かりやすい授業・丁寧な学生サポートの実施をした。

② 国家試験合格に連結する授業展開を行った。

③ 国家試験の全員合格を図った。

④ 退学者の防止に努めた。

(1年間の退学者は介護福祉課1年生2名、2年生1名、OT科1年生1名、2年生1名、3年生0名。合計で5名、率は5名/109名=4.6%。各クラス2名以下しか退学しなかったのは、教職員の丁寧な指導による結果である)

⑤ 留学生の学習課題・日常生活課題に丁寧に対応した。

⑥ 留学生補講を実施した。

⑦ 教員間で教育力の向上を図った。

2) YMCAブランディングの推進

YMCAの目指す目標を意識して、教育活動、地域活動、広報活動を行った。

ひとりがよくなると世界はきっと変わる。

ブランディングスローガン「みつかる。つながる。よくなっていく。」

① 学生にYMCAの特徴を意識して伝え、理解を深めることを継続した。

② 地域・地域の方々とのつながりを深める活動へ積極的に参加を促した。

③ YMCAブランディングに沿った広報活動を行った。

④ 近隣YMCAと連携し、幅広い体験の機会を本校学生に提供した。

⑤ 全国YMCA専門学校との連携強化・情報交換、共同広報活動を行った。

⑥ 業界団体、職能団体、行政とも連携し活動を行った。

3) 共生の文化」の醸成

これからの日本の社会を見据え、様々な機会を通じて学生が「多様な人々と豊かに共生する」ことが学べる場とし整備した。

① 多様性を受容する」、「多様性を生かす」という意識をもつ機会の提供をした。

② 両学科にまたがり、留学生と触れあう機会を積極的につくった。

③ 日常の学生生活における小さな交流を積み重ねた。

④ 異文化理解を深めた。

4) 広報活動の充実

現場から待ち望まれている介護福祉士・作業療法士の育成に応えるべく、入学者の確保を目指した。

① AO入試を導入し、適性のある入学者の早期募集を行った。

② 発信力の強化を図った(HPを見られやすくした。スマホを意識した対応を図った。学内の様子を積極的に発信した)。

③ 個々に最適な方法での教育の徹底が行われている様子をアピールした。

④ 学外での地域活動、ボランティア活動の様子を発信した。

⑤ 高校との連携の強化を図った(多摩地区を中心に88校を対象に学校訪問を充実した)。

- ⑥ 専門実践教育訓練給付金制度の指定講座になることを目指した（特に OT 科）。
 - ⑦ 通信制高校との連携した（早期から専門科目の内容を学習する機会の提供をした）。
 - ⑧ 介護福祉科は基本的に授業を 14:30 までとし、入学者の多様なニーズへの対応を可能にした。
 - ⑨ PDCA サイクル研修の継続、これを活用して目標達成を目指した。
- 5) 付帯事業の充実を図る
- 地域の要となる専門教育機関としての役割を果たすべく、付帯事業の充実を図った。
- ① 実務者研修の営業を行い、地域への浸透を図った。
 - ② EPA 研修生の受け入れを継続して行った。

2 江東 YMCA 幼稚園改修工事計画策定

ーコミュニティーセンターと幼稚園の一体的将来像作成に向けて

1956 年（昭和 31 年）第 1 回目の改修が行われている。1975 年（昭和 50 年）江東ランチ会館として、江東 YMCA 幼稚園舎・江東コミュニティーセンターとして現在用いている建物が建設された。44 年以上を経た建物である。耐震性は確保されてはいるが、経年劣化のためかなり使い勝手が悪い。

2019 年度は江東センターを母体に幼稚園が創立し 68 周年（育心保育園時代 1951 年～1969 年含）であった。

ここ数年触れてきたように、再開発は次の条件もクリアしなければいけない。

隣地南側の土地を取得したが、現在の土地に新たな土地を加え、現在の規模の建物を再開発しても、年少・年中・年長計 6 クラス、160 名定員確保は、「文科省幼稚園設置基準（昭和 31、文科省例第 32 号）」に基づき計算した結果、運動場面積が定員 160 名の幼稚園としては無理があり 140 名定員の幼稚園になってしまう。

（計算式：3 学級以上 $400 - 80 \times (\text{学級数} - 3)$ 平方メートル）。この数年で隣地の南側の土地の取得を試み、2020 年以降の次期 3 ヶ年計画を目途にコミュニティーセンターと幼稚園の複合的 YMCA 像を確立したい。

3 学校法人の今後のあるべき姿を検討し具体化する

- 発展策を考える -

2019 年度は以下の課題に取り組んだ。

1) 幼児教育職員・保育職員が安定的に働ける場づくりの努力をする。

法律や雇用条件の漸進的変化に連動して教育職・保育職の心の余裕を持って働ける職場の確立を目指したが、十分な人数の確保には至らなかった。都内及び近郊

の幼児教育学科や専門学校のキャリア就職課とのつながりを強化したが、志望者を大きく募る事はできなかった。次年度への課題である。

- 2) 園・専門学校は、園児・学生募集を行うに当たり夫々の教育理念を客観的に広報し、コミュニティー、保護者、高校現場や社会から信頼を得る広報活動を行う。また財団立各園・校との協働も一層推進する。

江東 YMCA 幼稚園、しののめ YMCA こども園への一定の評価は地域から得ている、と自己評価して良いと考える。ただし、保護者の各園の志望決定は一般論で SNS 経由情報が主流になりつつあると現状理解するが、各園入園説明会の一層の充実を図ることと、地域から支援される園創造への一層の努力、加えてホームページの掲載の仕方に一工夫必要がある。医療福祉専門学校は学内で、両学科長・校長、事務局合同の募集会議を行い、特に西東京地区の全高等学校の進路指導教員の訪問、進路ガイダンスへの積極参加を行い、現役高校生の応募が若干ながら増加傾向にある。また 2019 年度より、AO 入試を実施した。加えて、社会人のキャリア変更者、外国人実習生等を積極的に本科へ志願させる募集努力をすべき時期に来ている。医療福祉専門学校の専門領域、立地のためか、財団立各専門学校の連携へ弱さが見え、反省材料である。

- 3) 学校法人東京 YMCA 学院の規模の展望は、地域形成に参画する学院づくりの理想を追求し続ける事から開ける。

- 経営規模の検討 -

2019 年度はここ数年主張してきている、「街づくりには YMCA 教育がいかに地域文化形成」、の確信のもと、こども園、幼稚園、子どもの存在そのものが、人々にとって未来への夢であり・希望の文化であり、人々の「街」に住み続ける、生きがいを育む根拠になる。また医療福祉の学生の存在は、高齢社会にあって、たくましい青年のエネルギーに、人々の心に落ち着きを生む。その意味で良い幼児教育の機会拡大と医療福祉教育の展開を YMCA は社会から求められている、と確信している。条件が整えば、学校法人は規模を拡大すべきである。

2019 年度総括にあたり、YMCA が更なる拡大機会を求められる時のため運営組織の拡充の必要性を 引き続き再確認したい。

- ① 拡大を求められる時のために管理スタッフの育成、教育・保育職員の YMCA 理解、教育観形成の研修は継続的課題である。
- ③ 安定的に保育者、幼児教育教員の確保も喫緊の課題である。

II 理事会・評議員会

A 理事会

2019年度に開催された理事会は以下の通りである。

開催日		内容
5月27日	(月)	2018年度決算案及び監査報告について 2018年度事業報告書について 東京YMCA医療福祉専門学校学則変更について
11月11日	(月)	給与規程改定について 隣地南側角地販売交渉の可否について 東京YMCA医療福祉専門学校の現状報告と将来に むけての意見交換
3月27日	(金)	2019年度学院総括(案)及び2020年度運営方針について 2019年度補正予算案について 2020年度予算案について 寄付行為変更について 役員報酬の基準について 東京YMCA医療福祉専門学校奨学金規程について

B 評議員会

2019年度に開催された評議員会は以下の通りである。

開催日		内容
5月27日	(月)	018年度決算案及び監査報告について 2018年度事業報告書について 東京YMCA医療福祉専門学校学則変更について
11月11日	(月)	給与規程改定について 隣地南側角地販売交渉の可否について 東京YMCA医療福祉専門学校の現状報告と将来に むけての意見交換
3月27日	(金)	2019年度学院総括(案)及び2020年度運営方針について 2019年度補正予算案について 2020年度予算案について 寄付行為変更について 役員報酬の基準について 東京YMCA医療福祉専門学校奨学金規程について

Ⅲ 学生数園児数等

東京YMCA学院園児数学生数等

2020年3月1日現在

江東幼稚園

区分	定員	開始	現在数	2018年度
年少	50	53	55	54
年中	55	56	56	52
年長	55	49	49	49
合計	160	158	160	155

しのめこども園

保育園	定員	開始	現在数	2018年度
0歳	6	6	6	6
1歳	12	12	12	12
2歳	12	12	12	12
計	30	30	30	30
幼稚園	定員	開始	現在数	2018年度
年少	90	87	89	90
年中	90	88	89	88
年長	90	88	87	88
計	270	263	265	266
合計	300	293	286	296

医療福祉専門学校

(休学者含む)

区分	定員	開始	現在数	2018年度
介護福祉科				
1年	80	42	40	28
2年	80	25	25	24
計	160	67	65	52
作業療法学科				
1年	30	12	12	16
2年	30	16	15	14
3年	30	15	15	19
計	90	43	42	49
合計	250	110	107	101

江東幼稚園教職員数

(職員に体育講師を含む)

園長	教諭	助手	職員	合計
1	6	5	4	16

医療福祉専門学校教職員数

校長	介護教員	OT教員	職員	合計
1	6	6	5	18

しのめこども園教職員数

(職員に体育講師を含む)

園長	主任	教諭	施設長	非常勤	看護師	職員	合計
1	1	15	1	11	1	5	35